

③新たな作目や品種の特徴を活かした需要拡大

埼玉県産大豆を活用した無菌大豆粉と業務用素材「全粒大豆乳酸発酵濃縮液」の開発・販売

埼玉県産大豆を用いて、「無菌大豆粉」及び「全粒大豆乳酸発酵濃縮液」の開発、販路拡大を行う。

➤ 連携体

農林漁業者

(株)はせがわ農園 (農業)

埼玉県産大豆として行田在来青大豆、里のほほえみの栽培を行い安定供給体制を構築する。

中小企業者

(株)ペリカン (その他の精穀・製粉業)

行田在来青大豆を用いた「無菌大豆粉」、里のほほえみを用いた「全粒大豆乳酸発酵濃縮液」開発し、販路を開拓する。

連携参加者

桶川市商工会、埼玉糧穀(株)

桶川市商工会は本事業の地域への普及、埼玉糧穀(株)は大豆の管理・栽培のサポートを行う。

サポート機関等

埼玉県商工会連合会、東和銀行、(独)中小企業基盤整備機構関東本部

➤ 連携の経緯

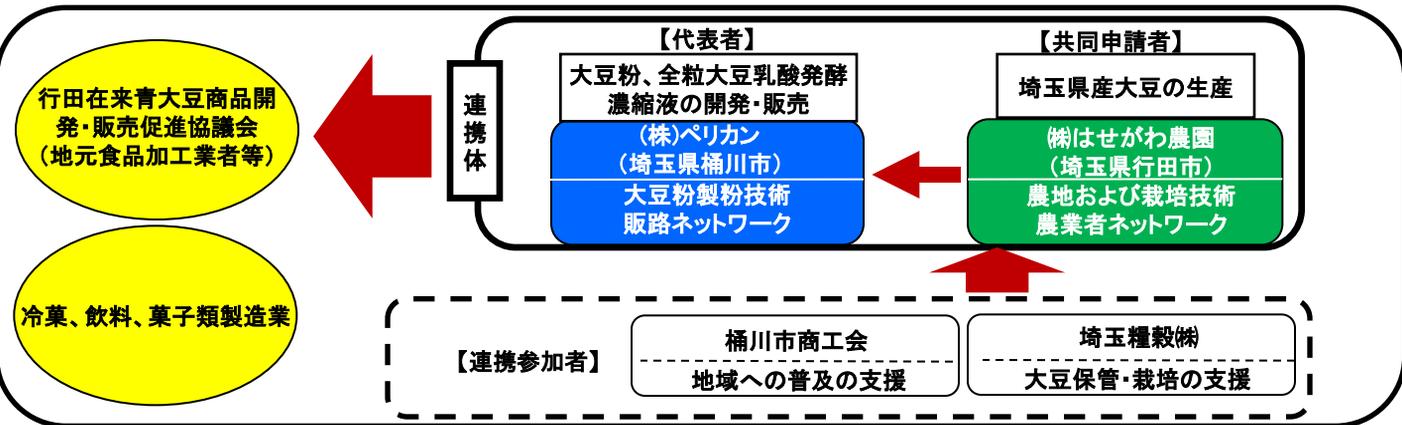
(株)はせがわ農園は行田在来大豆の生産体制の整備及び加工用途の拡大にあたって、安定した販路の確保を模索していた。一方、(株)ペリカンは自社の技術を活かした大豆の加工方法の拡大及び国産大豆の安定した調達を課題としていた。そこで同じ県内で大豆に関わる両社が情報共有を行ったところ、大豆の栽培から製粉、加工に至るまでの連携や新たな用途の開発が可能であると判断し、今回の連携に至った。



➤ 連携に当たっての課題や工夫等

本事業の課題は、「大豆を用いた発酵飲料の開発」「大豆の安定供給体制の確保」などがあげられる。両社で協議をしながら大豆の乾燥調製、製粉方法などを検討し、中間素材としての用途を開発していく。

また、新たな品種を加えることで生産面、コスト面を安定させ、用途に応じた地場産大豆を安定的に確保する。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で256万円の売上高増加、同量の稲作からの転換による経営改善

行田在来青大豆、里のほほえみの生産により農地の活用が図られ、農業経営の改善に貢献すると期待される。

中小企業者

5年で5,520万円の売上高増加、地元雇用1名の創出

無菌大豆粉及び全粒大豆乳酸発酵濃縮液の開発・販売により、売上の増加と地元での1名の新規雇用が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：株式会社ペリカン
 TEL：048-787-2222
 E-mail：harada@pelican-eg.co.jp

所在地：埼玉県桶川市下日出谷西3-2-1
 FAX：048-787-2224
 ホームページ：